

「CHECK」 ながら防災をやってみた！
一斉清掃+避難訓練=ながら防災
青葉台第2区会の挑戦

「まずは、やってみよう！」これが青葉台第2区会地区防災計画メンバーの合言葉。青葉台地区は現役世代が多く、既存の事業に加えて新しい事業を始めるのは難しい…ならば、今年度は、既存の事業に重ねる作戦「一斉清掃+避難訓練=ながら防災」です。1回目は、6月1日の一斉清掃時。1時間の清掃のうちの20分を訓練に充てます。これまでと流れが変わるので、周知徹底のため回覧板で2回情報を流しました。通常の清掃は組長宅前集合ですが、今回の集合（避難）場所は青葉台中央公園。8時20分ごろから人が集まってきました。組ごとに整列し組長が点呼。その後、不安なことではなかったか？気が付いたことはないか？の情報を収集しました。住民のみなさんはこの避難訓練をどのように感じられたでしょうか？みなさんの意見が地区防災計画のアップデートには必要不可欠です。2回目の訓練までにいただいた意見を考慮しながら、避難方法などを再考し10月の訓練に生かします。

さらに、今後は支援が必要な人の把握と医療関係・緊急時送迎ボランティアなどを募るため、各戸へアンケートを配布・回収し、集まったメンバーで青葉台第2区会防災チームを立ち上げたいと思います。「青葉台に住んで良かった、自治会に入っていて良かった」そんな言葉が飛び交うまちへ。
さあ、やってみよう！



「CHECK」 「特別防災委員会を立ち上げてみた！」
自由ヶ丘第2区会の挑戦

自由ヶ丘第2区会では、昨年の地区防災計画を受け、今年度より、**防災担当の副会長を中心に、防災プロジェクトとして「特別防災委員会」を立ち上げました。**会長、副会長、事務長、防災士を主メンバーとしますが、実際に防災に関わる事業に必要な役割の人を、その都度招集する臨機応変な委員会です。6月9日のまち歩きでは子ども会と連携し、住んでいる各丁目を歩きました。現在あるマップの危険箇所に加え、子どもの目線での情報を追加しました。また6月には組長まで、10月には全世帯への伝達訓練を行います。段階を踏むことで、伝達方法の確認と改善を行い、伝達の強化を図ります。秋には全住民あげての避難訓練を計画しています。今後も住民に情報を共有しながら「みんなde防災」を目指します。



昨年購入した簡易トイレとテントを展示。



ご存じですか？



左の写真が何かわかりますか？自由ヶ丘から赤間駅に向かう道路（田久辺り）に設置された道路冠水警報システムです。昨年、全国ニュースにもあがった宗像の浸水事案を受け、防災についての迅速な市の対応が見られますね。さすが、2024年 全国住みたい街ランキング1位の宗像市です！



令和7年度 地区防災計画、始動
自由ヶ丘地区の防災を、
一歩前へ！



5月25日（日）今年度も、北九州市立大学の村江史年准教授のご指導の下、地区防災計画が始まりました。昨年1年をかけて各自治会ごとに計画の素案ができました。今年度はその計画をもとに、実践や訓練を行い、計画のアップデートを計ります。「今年は何をやってみる？」をテーマに、各自治会が動き出します。防災力は地域住民が一つになって強いものになります。未来の不安を安心に変えるのは防災です！さあ、一緒に！

各自治会のやってみる！

- 自由ヶ丘第1区会**
各丁目ごとの防災組織の立ち上げと計画の作成。計画に上がっている避難場所への協力依頼。避難行動要支援者のトリアージ化。
- 自由ヶ丘第2区会**
特別防災委員会のプロジェクトの立ち上げ、住民みんなが関わる防災計画に。子どもの目線を入れた防災マップの作成（子どもと一緒にまち歩き）。
- 自由ヶ丘第3区会**
住民の顔が見える関係づくり。協働作業をもとに自力をつける。伝達訓練は抜き打ちでやってみる。ドローンを使って、新たな目線での地域把握。
- 自由ヶ丘南第1区会**
令和6年度に作成した原案を元に、区会内で議論して計画作成へと一歩進める。

- 自由ヶ丘南第2区会**
計画の素案をブラッシュアップ。連絡網は適切か、備品は適正かなど災害時の避難状況を想定しながら見直し、必要なものは購入する。
- 自由ヶ丘南第3区会**
避難場所を再度検討する。情報伝達訓練は連絡網作成から時間がたたないうちに実践してみる。
- 自由ヶ丘南第4区会**
情報伝達訓練の充実（役員のみから住民全体へ）避難場所との連携を強化する。
- 青葉台第1区会**
防災計画担当メンバーの強化、連携。伝達訓練の見直し。必要防災備品の整備、購入。
- 青葉台第2区会**
「ながら防災」の実施。6月・10月の一斉清掃時に避難訓練を実施。支援が必要な人や地域にいる支援ボランティアの情報を収集し、青葉台防災チームを立ち上げたい。

シリーズ企画 コミュニティスクール... そもそもの話 NO.1

そもそも小中一貫コミュニティスクールとは…「小中合わせた9年間の「縦のつながり」をコミュニティスクールで地域や家庭との「横の連携」を強化し、双方を一体的に推進することで、様々な教育施策や教育活動をより効果的に進める取り組み」です。では、そもそも小中一貫教育って何なのでしょう？シリーズ第1回目の今回は、土台となる小中一貫教育のお話をしますね。

9年間（小学校6年間 中学校3年間）の教育内容を見直し、義務教育9年間でひとくくりにして、小学校6年生から中学1年生の接続をスムーズに行い「中1ギャップ」(中学校入学後、小学校の生活と中学校の生活の違いになじめず学校生活に楽しさや希望が持てないこと)をなくすことを目的に進められた教育施策です。平成18年度からスタートし、一定の成果が得られました。その後、今度は子どもたちを取り巻く環境の変化が大きくなり、「学校だけ、家庭だけ、地域だけ」での子育てでは子どもたちを育てていけないということが明らかになってきました。そこで宗像市では小中一貫教育を土台として学校・家庭・地域総がかりで子どもたちを育てる、「コミュニティスクール」を教育施策として追加しました。令和7年度の学びの丘学園（自由ヶ丘地区の3つの小中学校をまとめた総称）における学校・家庭・地域の共通目標に【ふるさと「学びの丘」を愛し、夢に向かう子どもの育成】を掲げ、取り組んでいきます。次回は、「そもそも小中一貫コミュニティスクールとは」のコミュニティスクールの観点から、宗像市の小中学校の現状をお届けします。